

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立桜堤学校
校長名	吉岡 大司

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">3学年の英語において、昨年度（同一集団）の標準スコアが48.8から、50.2となり、+1.4も向上した。1学年の英語において、標準スコアが50を上回る結果となった。	<ul style="list-style-type: none">1学年の英語と国語、3学年の英語を除く教科において、標準スコアが50未満である。2学年の社会、数学、理科、英語、3学年の社会、理科のDE層が50%以上である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">2学年の「勉強するときは、自分で計画を立てていますか」という質問に対して、肯定率が52.8%となり、全国の基準の50.5%を上回った。1学年において、「テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか」という質問に対して、肯定率が75.3%、「ノートの取り方について、自分なりの工夫をしていますか」に対して78.5%となり、どちらも全国の基準を約4ポイント超えている。「3時間以上学習している」と回答した生徒の割合が、特に、2・3年生が、昨年度と比べて、5%以上向上している。	<ul style="list-style-type: none">1学年において、土日や祝日など学校が休みの日の学習時間についての回答の中央値が「まったくしない」、2学年でも「30分くらい」と回答している。中央値の全国結果とかけ離れた結果となった。3学年において、友達とのメールやSNSでのやり取りの頻度に関して、「毎日ひんばんにする」という回答が、全国の中央値45.7%に対して、62.1%となっており、顕著な傾向がみられる。平日のテレビ、動画、インターネット、ゲームの時間に対する回答の中央値が、「4時間以上」となり、全国の「2時間くらい」を大幅に超えている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">年間を通して朝読書を実施しており、10分間落ち着いて取り組んでいる。英検の申し込みが本校の8人に1人受検しており、合格率は一次試験78%、二次試験は96%と本校始めて以来の受験者数並びに高い合格率になっている。	<ul style="list-style-type: none">国語の学力調査結果から、朝読書が一定の成果を上げているのは自明である。朝読書に匹敵するような年間を通しての他教科の底上げを目指す取り組みを考える必要がある。ミライシード、MONOXERの配信を計画的に行っているが、取り組む生徒とそうでない

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年でタイピング学習や5教科のコンテストを実施し、タブレット端末を活用しやすいデジタル学習の環境を工夫できている。 ・全学年でアントレプレナーシップ教育を行っており、今の学習が将来につながっているという実感を得ている。 	<p>生徒の二極化が進んでいる。</p>
--	----------------------

2 令和5年度の学力向上に関する主な取組

(1) デジタルを活用した学習やA I教材の積極的な導入

本校の学力向上の喫緊の課題は、DE層の底上げである。デジタルを活用した学習やA I教材の積極的な導入をすることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に取り組む必要がある。

令和5年4月より、本校では、A I教材を本格的に導入した。定期考査前や授業、家庭学習、特に、定期考査前の朝学習においては、各教科担当が定期考査対策用の問題を作成するなどして、ある一定期間、毎日帯状に時間を確保し、A I教材を活用する計画をする。

そのA I教材の一つが、MONOXER (モノグサ) である。これは、生徒一人ひとりに合ったアプローチで「記憶定着」をサポートする学習アプリである。また、MONOXERでは、本校の教員が、既存のA I教材ではなく、教科書や個別に最適化された学習問題を作成し、生徒に提供することで、生徒が苦手な問題に対して、つまずかずに、基礎を固められる効果がある。

これらのA I教材を使って、DE層が主体的、自律的な学習ができ、生徒自ら効果的な定着方法を理解し、学習が継続できるようにする。そして、ABC層の生徒に対しても、さらに、学習の習熟度を深めさせるため、「ふりかえりシート」や「ミライシード」、「理科社会のデータベース」も引き続き、基礎基本の定着や応用力を身に付けさせるため、活用する。

(2) 桜堤中学学習スタンダードの徹底をはかり、教師の授業力育成や授業改善の推進する

生徒の基礎学力の定着には、授業規律の徹底や教師の授業力向上や授業改善が必須である、

全ての教科の授業の導入時に「学習のねらい」を明示し、授業終わりに「学習のねらい」が達成できたかなどを確認する生徒のアウトプットの場「まとめ」の設定をしたり、ふりかえりシートを活用したりするなどの徹底を図る。

具体的な授業改善

- (1) 授業の準備として教材研究をしっかりとる。
- (2) 授業のはじめに、本時の「めあて」を板書する。
*課題を把握するなどの「考える」時間の確保や前時の復習や既習事項の確実な実行。
- (3) 授業の展開 (学習方法の工夫)
*自力解決 (自分なりの考えで解決をさせる。子どもが考える解決方法を予想させる。)
*学び合い (ペアワークやグループ学習等の導入)
- (4) まとめの時間の確保
*授業の中間、25分を意識した授業計画をすることで、まとめを確実に実施する。
*授業の始まりと終わりの時間を守り、1単位時間50分の学習時間の確保。
- (5) 少人数習熟度別指導などを活用 (多様な授業形態やICT活用)

また、生徒に対して、休み時間中に、次の授業準備として、机上に、教科書やノートなどの道具が揃っているかなど、自らチェックさせる取組やチャイム着席の徹底を図り、生徒が主体的に取り組む姿勢を育む。

(3) 各種検定を推奨し、タイピング強化週間や5教科「コンテスト」の実施

生徒に、各種検定（漢検・英検・数検）を積極的に受検する支援を行うことで、家庭学習や自学自習の機会を設定できる。また、朝学習（毎週火曜日～金曜日の8:20～8:30）を活用したR4より実施しているタイピング強化週間（年2回検定）や5教科「コンテスト」を計画的に実施することで、生徒自身の基礎学力をさらに伸ばし、学ぶ事の目標をもたせて学習に取り組ませる。

さらに、朝読書を計画的に実施することで、授業に対する構えや理解力の向上を図る。

(4) 自己調整力を育成するAI教材ジョルテの活用

令和5年度より、全校生徒のタブレット端末機にスケジュール管理アプリのジョルテをインストールし、活用させる。このアプリを使って、毎日の予定並び、テストに向けての学習計画を記入させることにより、PDCAサイクルを実感させ、「自ら学び、考え行動し続ける力」や「自己調整力」を育成する。タブレット端末機の基本動作の習慣化や（書く／記録する）習慣、時間や日時を意識する習慣、毎日を振り返る習慣も育成する。毎日、ロイノートで担任へ提出させ、生徒の生活リズムを確認し、生徒に適宜なアドバイスやフィードバックを行う取組を行う。

(5) 令和5年度学力向上のためのマネジメント推進校を活用した取組

本校は、令和5年度学力向上のためのマネジメント推進校として、「数学、英語、理科、社会のDE層の底上げに取り組む」を研究する。特に、理科や社会について、実践する。

(1) 学力向上委員会の組織の活性化と充実した取組

つまずきのある（C層、D層）児童への取組強化として、振り返り強化期間の設定
「ふりかえりシート」や「ミライシード」等活用する。

I期 9月2日～10月7日 II期 1月11日～4月

(2) 学力向上委員会が中心となり、毎週の学力補習教室等や長期休業中の補習教室の企画・運営を提案する。特に、夏休み補習教室は、全学年で実施する。

(3) 令和6年1月から3月までに、当該学年の振り返りを実施（全学年実施）

SSSが長期休業中にふりかえりシートや学力調査の問題を印刷するなどして準備。
テストや問題に慣れることを定着させ、「できる」「分かる」までの学びを繰り返す。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各教科の授業で「ふりかえりシート」や「ミライシード」を活用し、目標値よりも低い内容項目の復習を行い、標準スコアを1以上上げるとともに、50まで引き上げる。
- ・各教科の授業や自宅学習において、デジタルを活用した学習やAI教材を活用することで、繰り返し学習を行い、基礎学力の定着を図り、DE層層の割合を5%減らす。
- ・スケジュール管理アプリのジョルテを活用して、休日や祝日の学校がない日において、家庭での学習時間の中央値を、全学年30分以上にする。